

日立市における小地域福祉活動の実施経過

○平成2年4月

市社会福祉協議会が地域福祉推進事業の実施主体となり、年次的にモデル地区を指定する。

○平成2年9月

日立市地域福祉推進計画基本構想で「学区単位の支部」設置構想が提言される。(市)

○平成3年3月

日立市地域福祉推進計画において、小地域社会福祉協議会設置が提案される。(市)

○平成4年3月

社協発展計画（基本構想）を策定し、小地域社協設置【後の地区社協】を計画した。

○平成5年3月

社協行動計画（年次計画）を策定し、平成9～13年度までに、各地区段階的に地区社協を設置することとした。

○平成8年4月

全22地区において地域福祉推進事業の指定完了。

【この事業を核に後の地区社協事業に繋げるものとした：地域の方々がともに支えあい・助けあいによる事業の実践をととして、地域福祉の重要性を理解する上で重要な事業であった】

〈指定年度及び地区名〉

開始年度	地 区 名	開始年度	地 区 名
平成2年度	仲町、助川、大みか、中里	平成6年度	日高、諏訪、塙山、坂下
平成3年度	田尻、成沢、金沢、久慈	平成7年度	中小路、油縄子、大沼
平成5年度	豊浦、宮田、会瀬、水木	平成8年度	滑川、大久保、河原子

〈具体的事業〉

ひとり暮らし高齢者等を対象とした見守り体制（見守りチーム）づくりを中心事業として、その他補完的に啓発・ふれあい事業を実施

○平成9年度

地域福祉の見守りチーム数が1,000チームを越える。(1,080チーム)

○平成9年3月

平成7～8年度 地区社協設置ワーキンググループ（第1次）検討結果をまとめる。

※平成4年度の行動計画で当初予定した、平成9年度から13年度までの各地域における地区社協の段階的設置を平成11年度の一斉設置に変更修正。

○平成9年3月

社協理事会、評議員会において、平成11年4月に小学校区（22地区）ごとの全市一斉の地区社協の発足を決定。

○平成10年3月

平成9年度 ワーキンググループ（第2次）検討結果をまとめる。（地区社協の組織・事業・財源の詳細検討）

○平成10年4月

これまで地域福祉推進事業を実施してきた各地区の地域福祉推進組織を地区社協とするため、地域福祉を進めている各地域代表者、行政等関係団体機関による「地区社協設置委員会」を組織し、組織改編の協議を行い、地区社協設置の最終合意を得た。

○平成11年3～5月

平成11年度 小学校区単位に22の地区社協が全市一斉に設置される。

○平成18年6月

十王地区社協設立準備委員会を設置。（平成17年度に日立市社協と十王町社協が合併、行政は平成16年度に合併）

○平成19年4月

十王地区社協設立。

○平成19年度～平成20年度

これからのより良い地域福祉活動の推進のため、平成21年度を目途にコミュニティ組織と地区社協の一体的推進に向けた各種検討を重ねた。

○平成21年4月

各学区のコミュニティ組織と地区社協が一体化し、コミュニティ単会が「地区社協の機能を有する組織」として地域福祉事業を展開することとなった。

○平成21年6月

あんしん・安全ネットワークチーム数が2,000チームを超える。(2,027チーム)

○平成23年3月

東日本大震災発生。各地区ではネットワーク対象者の安否確認を行うとともに被災状況を把握し、災害支援ボランティアを活用するなど、さまざまな支援活動を行った。

○平成25年4月

あんしん・安全ネットワークチーム数が2,500チームを超える。(2,551チーム)

○平成28年3月

- ・地域福祉事業の充実を図るため、生活支援コーディネーターの配置や連携強化地区の指定を行い、小地域福祉推進体制の積極的な推進を行った。(連携強化地区：仲町、成沢、大久保、塙山、水木)
- ・生活支援サービスについての協議を進めるため、協議体(生活サポート連絡会議)を発足した。
- ・提案型地域福祉事業の実施：各地区からの新たな提案による先駆的・開拓的事業に対して助成を実施。その効果等を踏まえ、全市事業展開へつなげるための調査・研究を行った。(実施地区：日高、助川、金沢、水木)
- ・地域ケアシステムモデル事業の実施：地区で実施しているコミュニティケア会議をモデル事業として助成。その必要性や課題等を整理・分析し、地域包括ケアシステムの構築につなげた。(実施地区：塙山)

○平成28年6月～10月

あんしん・安全ネットワークチーム対象者(全員)の生活状況の実態を把握する目的で「生活状況調査(6項目)」を実施した。

○平成29年4月

あんしん・安全ネットワーク強化モデル事業の実施：ネットワーク対象者の要介護状況等を踏まえ、より手厚い支援が必要なケースを絞り込み、専門職と連携しながら訪問活動の充実を図ることを目的に実施をはじめた。(実施地区：田尻、仲町、塙山)

○平成30年8月

日立市地域福祉推進計画2019の策定：本会の第5次地域福祉活動計画と市の地域福祉計画(第4期)を一体的に策定。策定にあたり、全体委員会とあわせて、地域福祉活動実践者からの幅広い意見を集約するために、「小地域福祉活動作業部会」(10人)を設置し、部会での取り組みの一環として地区懇談会(4回)を開催した。

○平成31年4月

さらなる地域との連携強化を図り、これまでの「地区担当」に加え「生活支援担当」を各地区に割り当て、定期訪問や各種連携会議を実施した。

○令和3年3月

あんしん・安全ネットワーク強化モデル事業の実施が17地区・対象者は42人となった。日常生活がより心配な方への定期訪問やケース検討を重ねることで、支援者同士の横のつながりを重視した生活支援の整備が進んだ。

○令和4年3月

あんしん・安全ネットワーク強化モデル事業が全地区実施となったことで、名称を「あんしん・安全ネットワーク強化事業」とし、これにより強化事業の対象者は55人(令和3年度末)となった。

○令和4年8月

あんしん・安全ネットワーク強化事業対象者に、従来の人的な見守り活動に加え、IOT(インターネットにつながった家電)を活用した見守りを実施。「くらしあんしん事業(実証事業)」として、諏訪地区で5人の対象者宅に通信機能の付いた電球を設置し、より厚みのある見守り・安否確認活動を行った。

○令和5年8月

生活に困りごとを抱える方に向けて、幅広い食の支援を展開。支援策の一つとして食品収集箱「フードBOX”まんぷく”」を独自に作成し、19の交流センターに設置した。